

## この戦いは主の戦いだ

(1サムエル17・41～54)

## 一、ダビデが戦った相手

ペリシテ人の陣営から代表戦士ゴリヤテという、身長が3メートル近い、怪物のような男が登場しました。ペリシテ人とイスラエル人はエラの谷という場所に対峙しました。ゴリヤテは大声で語りました。「おれと戦っておれを殺せるなら、おれたちはおまえらの奴隷になる。だが、おれが勝ってそいつを殺したら、おまえらがおれたちの奴隷になって、おれたちに仕えるのだ」と。するとイスラエルの陣営はサウル王を始めとして、みんな腰砕けになってしまいました。一方、エッサイの息子の末の弟であったダビデは、ふだんは父の羊の群れを世話していました。長男、次男、三男は、サウル王の下で従軍しており、兄たちに食料を届けるのがダビデの役割でした。そのダビデが兄たちに食料を持ってきたときに、ゴリヤテが大声でイスラエルの陣営に向かって語ることを聞いてしまいました。17章23節です。〈ダビデが彼らと話しているとき、なんと、そのとき、あの代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来た。ガテ出身のゴリヤテという名のペリシテ人であった。彼は前と同じことを語った。ダビデはこれを聞いた。〉と。イスラエ

ルの陣営はどうなったでしょうか。24節です。〈イスラエルの人はみな、この男を見たとき、彼の前から逃げ、非常に恐れた。〉と。ダビデはどうだったでしょうか。26節です。〈ダビデは、そばに立っている人たちに言った。「このペリシテ人を討ち取って、イスラエルの恥辱を取り除く者には、どうされるのですか。この無割礼のペリシテ人は何なのですか。生ける神の陣をそしるとは。〉と。ダビデはサウル王に言いました。32節です。〈ダビデはサウルに言った。「あの男のために、だれも気を落とすはなりません。このしもべが行って、あのペリシテ人と戦います。〉と。

読者である私たちが聖書から読み取るべきは、ペリシテはヤハウエの敵であり、ダビデは神の敵に立ち向かったと言つことです。ダビデは、偉ふついているゴリヤテと戦ったのではなく、ゴリヤテに代表される神の敵に戦いを挑んだのでした。

## 二、この戦いは主の戦いだ

38節に〈サウルはダビデに自分のよろいかぶとを着けさせた。頭に青銅のかぶとをかぶらせて、それから身によろいを着けさせたのである。〉とあります。ところがダビデには合いませんでした。39節です。〈ダビデは、そのよろいの上にサウルの剣を帯びた。慣れていなかったので、ために歩いてみた。

ダビデはサウルに言った。「これらのものを着けては、歩くこともできません。慣れていませんから。」ダビデはそれを脱いだ。〉と。ダビデは自分でできる戦術を考えました。それはよろいかぶとを身に着けず、剣も用いないことでした。40節です。〈そして自分の杖を手に取り、川から五つの滑らかな石を選んで、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にし、そのペリシテ人に近づいて行った。〉と。

これはそのまま、私たちに当てはまります。人生においては様々な戦いがあります。戦いの中でも、「この戦いは普通の戦いではない。霊的な戦いだ。悪魔との戦いだ」と思われるときがやって来ることでありましょう。そのような非常の時は、自分のものになっていないやり方ではなく、いわゆる「借りもの」によってではなく、主にあって、これまで培われてきたやり方で戦うことをお勧めします。もちろん、人に相談するのも良いですが、最終的に決めるのは自分ですから、悔いのない決断をされますよう、お勧めをします。

こうしてダビデは、一人で巨人ゴリヤテに立ち向かいました。もちろん、主にあってです。だからこそ、語っています。45節、46節です。〈ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と槍と投げ槍を持って私に向かって来るが、私は、おまえがそしつたイスラエルの戦

陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かう。(略)すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るだろう。〉と。そして47節は、ダビデのことばとして記されていますが、同時に神が私共に語っていることばです。〈ここに集まっているすべての者も、剣や槍がなくても、主が救いをもたらすことを知るだろう。この戦いは主の戦いだ。主は、おまえたちをわれわれの手に渡される。〉と。

## 三、神の戦略を知る

私たちは人生において様々な戦いがあります。『どうして、こんな勢力が台頭することを許されるか』は、古代イスラエルも味わってきたことです。ヤハウエに敵対するペリシテ人がそばにいたという現実。やがては新アッシリア帝国が台頭し、新バビロニア帝国が台頭します。一方で、古くからエジプトがありました。それらの勢力は、小国であったイスラエルをどんなにか悩まし、苦しめたことでしょうか。ですがこればかりは、昔も今もどうすることもできない問題です。私たちは、大きな意味で唯一なる神が、すなわち父・子・聖霊なる神がすべてを統めておられると信じて歩む行く者です。私共は、様々な戦いをします。その中で、「この戦いは主の戦いだ」と知ったときは必ず勝利できますから、慌てる必要はありません。